

## 平成30年度特定外来生物（キョン）防除対策検討委員会〔第1回〕

### 議事概要

#### 1. 開催日時

平成30年6月20日（水） 13:30～14:30

#### 2. 開催場所

東京都大島支庁 第2会議室

#### 3. 出席者

##### ■検討委員

石井 信夫	東京女子大学現代教養学部 教授
加瀬 ちひろ	千葉科学大学危機管理学部 講師
小池 伸介	東京農工大学 准教授（欠席）
羽澄 俊裕	環境省登録・鳥獣保護管理プランナー
深澤 圭太	国立研究開発法人国立環境研究所 主任研究員
松林 尚志	東京農業大学農学部 教授
武藤 静	環境省伊豆諸島管理官事務所 国立公園管理官

#### 4. 議事内容

##### （1）平成29年度キョン防除対策事業実績について（資料1）

- 平成29年度の事業全体の評価として、目標捕獲数に対する評価があると良い。
- 重点地域での糞粒密度の経年変化とベイズ推定による個体数推定の結果では傾向が異なるが、個体数推定の結果は、糞粒密度以外のデータが含まれており、妥当性は高い。ただし、個体数推定の結果としては減少しているが、単純に安心しないほうが良い。捕獲圧がかかっていない場所もあるため、注意が必要である。

##### （2）平成30年度事業計画概要（資料2）

- 新しい技術を開発していくことについても検討してほしい。
- 新規の防除Dの他、防除Aと防除Cで昨年度と比べて事業地面積が増え、また、期間も長くなっている。ただし、防除Aと防除Cに関しては捕獲エリアが昨年度と大分重複しており、捕獲数は簡単には計算できない。
- 島民向けだけでなく、納税者である都民向けにも普及啓発が必要である。今年度既に第一庁舎1階ロビーでのパネル展示等を行っている。

- 細かい柵のメンテナンスは必要なのか疑問である。既存の柵をどう維持管理していくかは、今年度に限らず大事な仕事になるかと思う。
- 柵をどう捕獲に活用させるかという点において、維持管理が不要なものも出てくると思われる。柵の設置と維持管理の具体的に検討が必要。
- 希少植物被害の発生場所については、公表できなくとも都として把握しておくべき。
- 事業実施計画案に柵のメンテナンスを付け加えることとし、本事業計画で了承する。

(3) 東京都キョン防除実施計画の改定について (資料 3)

- 確実に根絶する方向で、計画改訂を進めるべき。問題解決していけるよう連携を十分に行っていく必要がある。